

通し番号	4 5 1 8
------	---------

分類番号	22-67-21-22
------	-------------

(成果情報名) ほ乳期の混合飼育がほ乳子豚に与える影響
[要約] 隣接した2つの分娩豚房の隔柵を1週齢時に取り除き、2腹を混合で飼育したところ、子豚の発育、生存性、行動は通常の飼育方法と差が認められない。
(実施機関・部名) 農業技術センター畜産技術所企画研究課 連絡先 046-238-4056

[背景・ねらい]

隣接した分娩豚房の隔柵を取り除いた飼育システムにおいて、ほ乳子豚の発育、行動等を比較し、養豚における家畜福祉に配慮した飼養方法を検証する。

[成果の内容・特徴]

1 発育調査の結果

1週毎の平均体重および試験期間中の1日平均増体重は試験区がやや重いが有意な差ではない(図1)。

治療実施率は試験区がやや高いが有意な差ではない。事故率は試験区と対照区で同等である。死亡原因は発育不良であり3週目以前に死亡した(表1)。

2 行動調査

子豚の休息行動および吸乳行動は対照区で多くみられるが、有意な差は認められない(図2)。また、試験区の授乳時に1分間隔で子豚がどの母豚から何頭吸乳しているかを調査したところ、多くの個体は自分の母から吸乳している(図3)。

[成果の活用面・留意点]

1 本試験は1週齢で隣接した2つの分娩豚房の隔柵を1週齢時に取り除き、2腹を混合したものである。

[具体的データ]

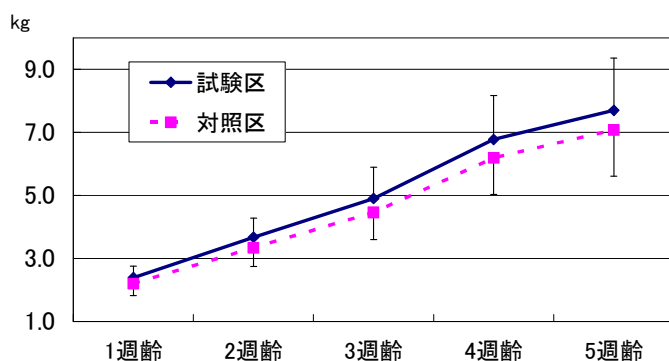


図1 平均体重の推移 (平均値±標準偏差)

表1 発育調査の結果（平均値±標準偏差）

	試験区		対照区	
	群	10	10	10
	頭数	86	85	
1日平均増体重				
開始体重(1週)	(kg)	2.4 ±0.4	2.2 ±0.4	
終了体重(5週)	(kg)	7.7 ±1.9	7.2 ±1.6	
1日平均増体重	(kg/日)	0.19 ±0.05	0.17 ±0.04	
治療個体の割合				
治療頭数	(頭)	3.8 ±4.8	2.5 ±4.2	
治療実施率	(%)	1.5 ±1.8	1.0 ±1.7	
生存個体の割合				
開始頭数	(頭)	8.6 ±2.2	8.5 ±1.6	
終了頭数	(頭)	8.3 ±2.2	8.2 ±1.4	
事故率	(%)	3.3 ±7.5	3.2 ±5.2	

P>0.05

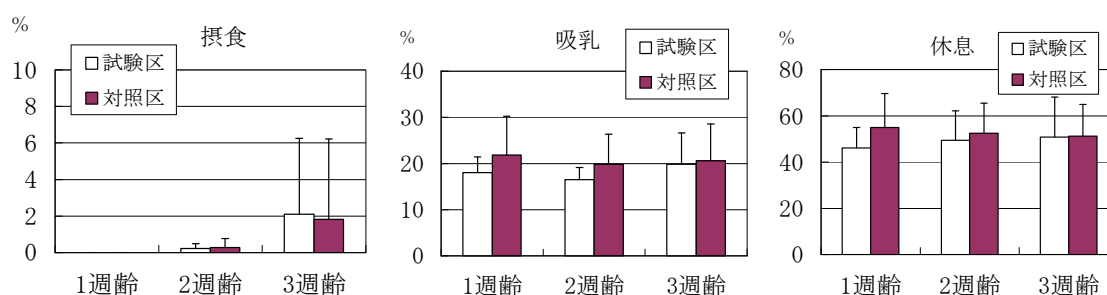


図2 行動の発現割合の推移（左：摂食、中：吸乳、右：休息 P>0.05）

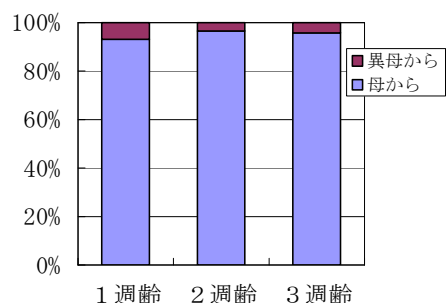


図3 試験区におけるほ乳子豚の吸乳頭数割合の推移（平均値）

- [資料名] 平成22年度試験研究成績書
- [研究課題名] 福祉的要素を取り入れたほ乳・離乳子豚の飼養管理方法の検討
ア ほ乳期の混合飼育がほ乳子豚に与える影響
- [研究期間] 平成20年度～
- [研究者担当名] 西田浩司、山本 禎
(共同研究：麻布大学)